

「地元とのコミュニケーションの充実」 の実施状況について

平成17年10月7日

関西電力株式会社

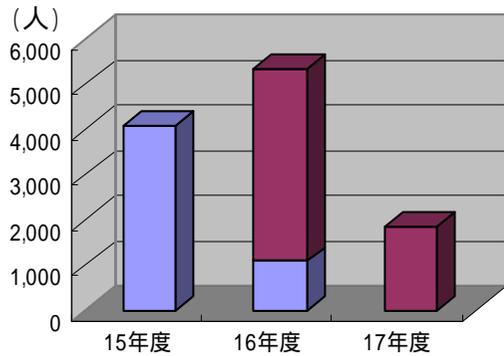
地元とのコミュニケーションの充実に係る実施項目

〔 行 動 計 画 〕	参 照
No.27 地元とのコミュニケーションの充実	2 ~ 7
[関連項目] ・地元の方々と発電所の技術者等が直接対話する機会を増やす	・コミュニケーションガイドラインの策定 ・技術者等を含めた直接対話の展開

従来から、原子力事業本部 地域共生グループを窓口とする強力な体制を構築し、活発に地域の方々とのコミュニケーション活動を実施していた。

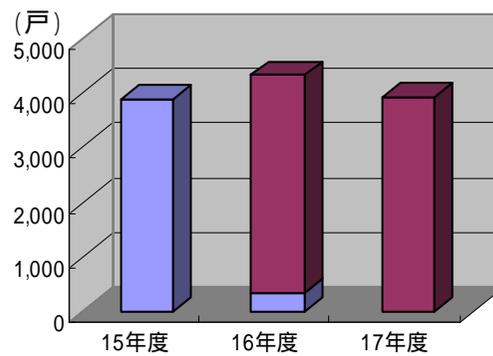
1. 地元説明会

地元各地区や各種団体からの要請等により開催する説明会。



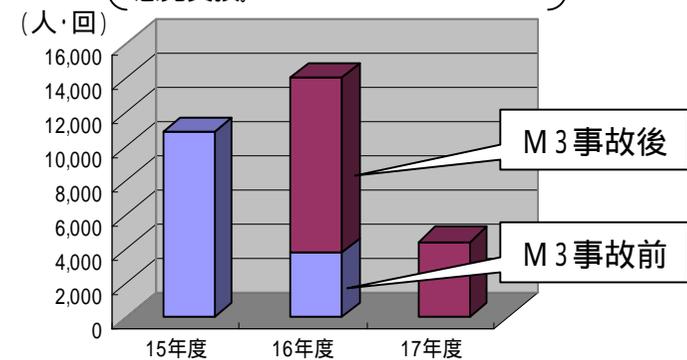
2. 各戸訪問

町民のご自宅に社員が訪問し、直接対話によりご意見を拝聴。



3. オピニオンリーダーへの説明

議員や各種団体のリーダー等に対して、プレス発表の情報提供などを通じ、意見交換。



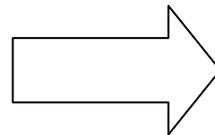
(H17年度は9月末現在の実績)

地域コミュニケーションの体制

(事業本部移転前)

- ・若狭支社 コミュニケーショングループ
- ・美浜発電所コミュニケーショングループ
- ・高浜発電所コミュニケーショングループ
- ・大飯発電所コミュニケーショングループ
- ・小浜営業所コミュニケーショングループ

合計 約50名

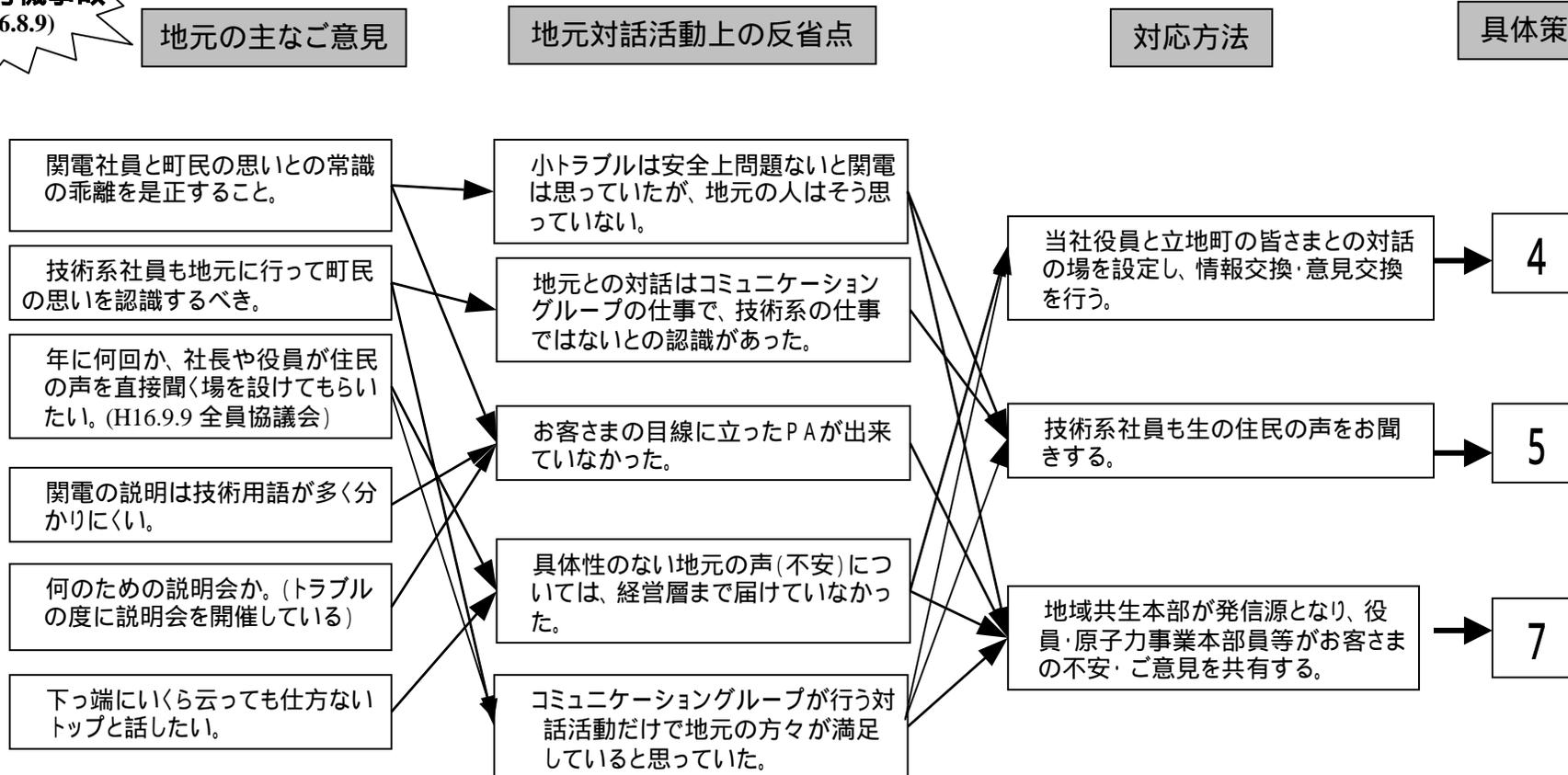
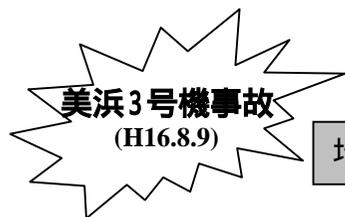


(事業本部移転後)

- ・地域共生本部地域共生グループ
- ・美浜発電所所長室コミュニケーション係
- ・高浜発電所所長室コミュニケーション係
- ・大飯発電所所長室コミュニケーション係
- ・小浜営業所 コミュニケーショングループ

合計 約60名

美浜3号機事故を機に、地元対話活動の方法を見直し、充実を図った。



地元の方々と社長・役員との直接対話の実施

目的

社長・役員が直接地元の方々と対話し、地元の生の声を発電所運営、および経営に活かす。
関電が変わったことを実感していただき、共感・信頼の醸成に資する。

実績

- (1) 日時 平成17年8月9日(火) 18:30~20:40
- (2) 場所 海のホテル ひろせ(美浜町久々子)
- (3) 出席者:
 - 〔地元〕美浜町内各種団体代表者
(山口町長、永田町議会議長オブサーバー参加) 計16名
 - 〔関電〕森社長、森本副社長、岸田常務ほか 計9名



懇談会で出された主な意見

- ・「安全を守る それは私の使命、我が社の使命」というスローガンを、これからも変わることなくこの精神を守って欲しい。
- ・社長宣言を地元一般人の目にも触れるようにすれば、信頼回復につながるはず。
- ・事故を風化させないで欲しい。
- ・原子力発電所での事故は観光や一次産業に影響を与える可能性がある。今後は再発防止対策をしっかりとやって欲しい。
- ・事業本部の移転は評価できるが、もっと多くの社員が地元(美浜町)に住んで欲しい。

意見への対応事例

- ・シールを作成し、原子力事業本部大で配布



- ・美浜町内に社宅・寮の建築を計画中

今後の展開

懇談後の評価が良かったので、引き続き来年も実施する。

【懇談会終了後の主な意見】

- ・社長が広く町民の声を聞くということは、今後も継続してもらいたい。
- ・社長と間近に対話することができて良かった。親切丁寧にお答えいただき、たいへん良かったと思う。

技術系社員の対話活動への参画

目的

美浜3号機事故に対する地元の方々の不安感を、技術系社員が自ら肌で体得する。
第一線の技術系社員と地元の方が直接対話することにより、関電が地元の一員であることを感じていただく。

各種説明会への参加

H16年8月9日の事故発生以降、本年9月末までに説明会を241回(延べ5,559名)開催。うち112回に技術系社員が参加。今後も継続的に実施していく。

各戸訪問活動への参加(美浜町での例)

【参加者へのアンケート結果】
仕事に向かう意識に変化あり **73%**

平成16年度は美浜町全戸(約3,200戸)の訪問に、技術系社員92名が同行。本年度も継続実施。

<p>【昨年度の実施概要】</p> <p>目的：地元住民の“お怒り”“不安”の声を直接お伺いする。</p> <p>訪問期間：11/24～12/22</p> <p>訪問時間帯：昼間帯(土日も含む)</p> <p>訪問者：事務系社員(説明担当)および技術系社員(記録担当)</p>	地元のご意見	<p>激励等 約92%</p> <ul style="list-style-type: none"> 技術系社員が住民の意見をきくのは良いこと <p>ご叱責・不安等 約8%</p> <ul style="list-style-type: none"> 住民一人一人に納得していただくつもりでやれ 世帯主に意見を聞くこと(昼は大半が勤めで留守) 技術系社員に意見を伺うとする姿勢が感じられなかった セレモニーのように感じる
<p>(ご意見を受け、目的・方法等を見直し)</p>		
<p>【本年度の実施概要】</p> <p>目的：<u>再発防止策について町民のご意見を直接お伺いする。</u></p> <p>訪問期間：9/14～9/26</p> <p>訪問時間帯：<u>夕刻 16時頃から(所帯主の在宅時間をねらう)</u></p> <p>訪問者：事務系社員および技術系社員(技術系社員も説明)</p>	地元のご意見	<p>激励等 約96%</p> <ul style="list-style-type: none"> いつまでも卑屈にならないで、胸を張ってくれ <p>ご叱責・不安等 約4%</p> <ul style="list-style-type: none"> 行動計画は着実に実施すること。いくら口で取り組むと言っても、トラブルを起こしているようではダメ 原子力事業本部の移転で何が変わったのか 相変わらずトラブル続きで何も変わっていない

対話活動要請

年に何回か社長や役員が住民の声を直接聞く場を設けていただきたい
 関電社員と住民の思いとの常識の乖離を是正すること
 技術系社員も町に出て地元町民の思いを認識すること
 説明資料は、わかりやすい表現で(専門的用語は避ける)



対応状況

「原子力懇談会」開催 H17年8月9日 行動計画に反映
 「発電所運営懇談会」(仮称)を年3回計画 行動計画に反映
 技術系社員が美浜町全戸訪問活動に参加 行動計画に反映
 技術系社員が各種説明会に参加(112回) 行動計画に反映
 第2回全戸訪問時の説明資料に反映(H17年9月)

観光支援・地域振興関連要望

観光客の集客強化
 地域振興策への協力



「出張PR館」と銘打った都市部への出向宣伝や当社PR媒体やマスメディア等を利用した福井県、若狭地域のイメージアップに取り組み中
 「若狭の宿」制度の充実による社員および社員家族の若狭方面への観光促進
 地元漁協・県漁連からの魚貝類購入を社員へ推奨

通報連絡要請

事故発生時における緊急連絡(地元3区)



丹生区 H16年11月12日より運用開始 行動計画に反映
 (発電所事故対応マニュアルに連絡方法を反映)
 竹波区、菅浜区は町から了承いただき詳細な運用を協議中

その他

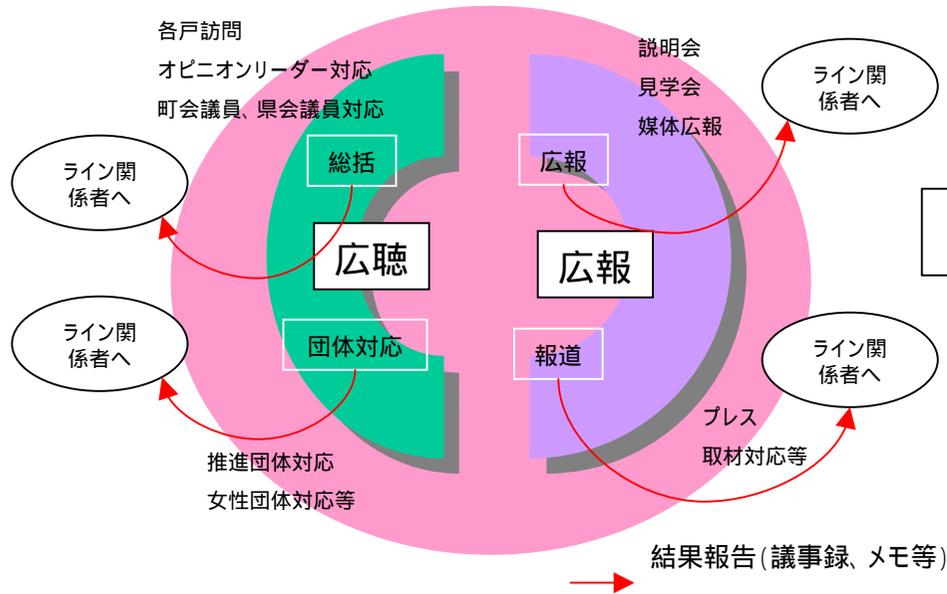
県道白木線の交通量調査
 信頼回復の標語をもっと目にとまるように



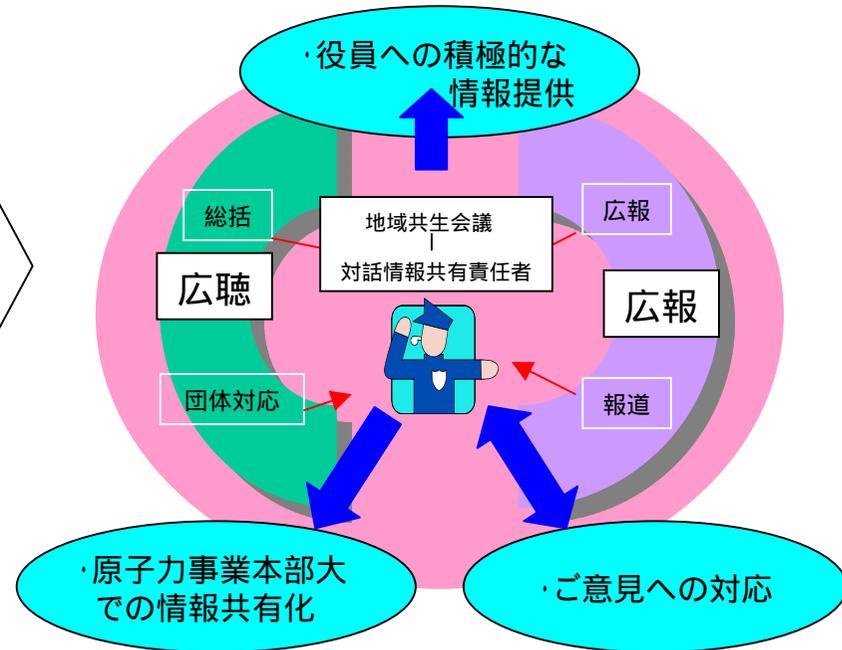
県道白木線の交通量調査実施(H17年7月~)
 名札にシール添付(H17年8月9日~)

拝聴したご意見の有効活用

これまでの活動



今後の活動 「対話情報共有責任者」を合計6名選任
「地域共生会議」を活用する



【社内での情報共有化】

広報・広聴活動でいただいたご意見は、主に対処箇所
の関係者間でのみ情報交換しており、原子力事業本
部大での情報共有化ができていなかった。

【経営層への情報提供】

漠然とした不安感など具体性のない意見については、
経営層に十分情報提供できていなかった。

【意見への対応】

ご意見に対する社内での活用と結果報告のルールが
不明瞭であった。

広報・広聴活動でいただいたご意見は、全て「対話情
報共有責任者」が集約、整理し、地域共生会議で議論
した後、社内の関係者間で情報を共有化する。

「対話情報共有責任者」は、地域共生会議の場で情報
提供するほか、経営層に積極的に情報提供する。

フィードバックが確認されるまで確実に管理する。

(「地元住民の方々とのコミュニケーションガイドライン」に反映)